

代表質問に立ちました!

1 市長の市政運営

01 市長が思い描く2030年の静岡市の将来像は?

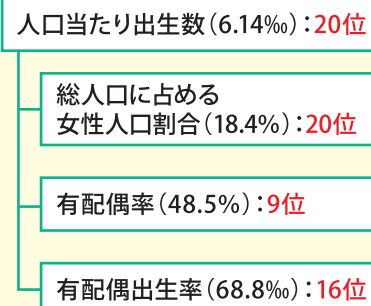
【答弁】市長
静岡市の強みである人の温かさや社会の絆を生かし、「安心感がある温かい社会」を目指す。そのために、土地の有効活用、まちづくり、海洋DXを活かした産業創出、子育て教育環境の充実など、具体的な取組をスタートさせ、2030年には多彩な文化と経済活力がある魅力的なまちを目指す。

02 人口減少問題対策は?

【答弁】市長
静岡市は人口減少に直面しており、特に若者の流出が問題。市政の変革と市民生活の質の向上を目指し、人口動態の詳細な分析を行うプロジェクトチームを設立した。令和6年度には「人口減少対策」の分科会を新設し、市内外の協力を得て因果関係の明確化と具体的な対策を検討、実行に移す。



足元(2020年)の状況 (大都市21市での位置付け)



2 安全安心なまちづくり(防災・環境・生活)

03 災害レジリエンス(注2)の強化策は?

【答弁】公営企業管理者・危機管理監
台風15号による清水区の断水問題に対応し、「清水地区水源検討部会」は、和田島浄水場からの水融通整備や新井戸設置等の対策を含む最適案を選定。令和6年度はこれらの事業に着手し、民間井戸の活用やポンプ車使用についても検討。また、初動体制の見直しでは、全職員に災害対応原則を浸透させ、風水害対策の柔軟なタイムライン計画を共有し、準備配備職員の配置を最適化した。加えて、気象情報や河川水位、SNS情報のリアルタイム監視を強化した。能登半島地震を踏まえて、災害対応力強化のため、課題の洗い出しと改善策の迅速な実施を全庁で進める。
(注2)大規模災害時に損害を最小限に抑え、迅速に社会・経済活動を回復させる能力。

04 PFAS(注3)から市民をどう守るのか?

【答弁】環境局長
井戸水を使っている人には水道水への切り替えを呼びかけている。地下水と公共用水域の水質調査を継続し、結果を公表するとともに、事業者と連携して周辺水路の調査と対策を進め、改善に努める。また、市民の安全と安心のために設置した「PFAS相談窓口」で意見を聞き、対応していく。
(注3)有機フッ素化合物の総称で、水源や土壌に長期間残留し、人間や動物に摂取されることで健康に悪影響を及ぼす可能性が指摘されている。

05 犯罪被害者等への支援策は?

【答弁】市民局長
犯罪被害者への迅速な支援として「見舞金・支援金」制度を新設する。経済的支援には「見舞金」、「日常生活支援金」、「転居費用支援金」が含まれ、国の制度の補完を目指す。県警等と連携を強化し、安全なまちづくりを推進する。

06 静岡市の地域医療政策は?

【答弁】保健衛生医療統括監
静岡県保健医療計画改定では、糖尿病病診連携システムの構築、山間地医療の充実に向けたオンライン診療の導入、および高齢者の介護予防の促進を主な取組として盛り込む。これらは県や医師会等の関係団体との協議・調整を経て決定され、県の計画に反映されることで、保健医療施策の連携化と事業の円滑な実施が期待される。

3 支え合いのまちづくり(子ども・教育・福祉)

07 しずはぐの成果と、今後の取組は?

【答弁】副市長
「はぐくむ子育ての安心」では保育料無償化、相談支援の新設、情報提供サービスの開始が行われ、「はぐくまれる子育ての安心」ではヤングケアラー支援とインクルーシブ教育の推進が主な支援内容。今後、これらの取組に加え、「子育て・教育環境の充実に向けた研究会」において洗い出した課題を解決するための取組を含めて、子育て家庭が安心して過ごすことができる環境の整備に取り組んでいく。

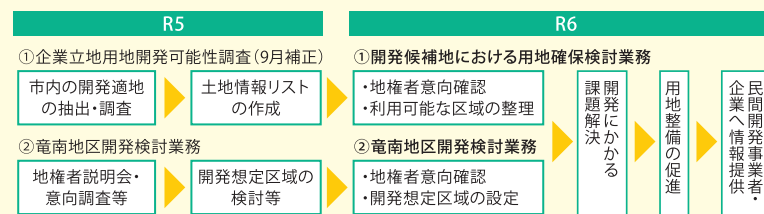


09 今回改定する「静岡市障がい者共生のまちづくり計画」の特徴はどのようなか?

【答弁】保健福祉長寿局長
計画改定では、医療的ケア児の支援強化、障がい者の就労支援強化、計画の進捗管理強化を目指す。これにより、障がいの有無に関わらず支え合い、共生のまちを実現する。

11 企業誘致・留置の今後の取組は?

【答弁】副市長
令和5年4月に設置された静岡市企業立地推進プロジェクトチームは、企業の立地支援に努め、赤目ヶ谷地区に企業用地を創出し、環境リサイクル分野を新設。清水区では未利用地の活用に取り組み、令和6年度は産業基盤強化本部の設置や低未利用地の集約化に注力し、新法人設立の準備を進める。



08 令和6年度の不登校対策は?

【答弁】教育長
令和6年度の不登校対策では、GIGAスクール構想に基づく「心と体の健康観察アプリ」を試験導入し、不登校の未然防止を図る。また、学校内に非教室型の居場所を設け、訪問教育相談員やスクールソーシャルワーカーによる家庭訪問など個別支援を強化。フリースクール等の社会資源を活用し、全ての児童生徒が学びと交流の機会を持てる環境を目指す。

心と体の健康観察アプリの活用イメージ

入力内容	・担任、学年主任、管理職、養護教諭が情報共有 ・日々蓄積したデータから、児童生徒の状態を分析 ・児童生徒のアセスメントの標準化と不登校リスクへの早期対応
体調に関すること	・心や体調の変化への適切な声掛け
気分や人間関係、意欲に関すること	・友人関係の再調整 ・個別の学習支援 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関等との連携 等

児童生徒が自己の様子を一人一台端末に入力(毎日約1分) 先生への相談

10 2025年問題(注4)対策は?

【答弁】保健福祉長寿局長
静岡市では、高齢者が地域で生活し続けるために「生活支援体制整備事業」を通じて生活支援コーディネーターを配置し、地域の支援ネットワーク強化と支え合い活動を促進している。また、「しずおか支え合い活動応援団」で民間企業とのマッチングを行い、移動販売車の運行など新たな取組を実施。高齢者の就労・社会参加支援も強化し、シルバー人材センターや就労相談窓口を設け、ボランティア活動によるポイント制度も導入している。
(注4)団塊の世代がすべて75歳以上の後期高齢者となり、社会保障負担の増大や労働力不足がさらに深刻化する問題。

12 令和6年度のBX(注5)の取組は?

【答弁】市長
令和6年度予算で、海洋産業革新と旧三保飛行場活用の2事業を進める。海産物の持続可能な利用や高度な養殖技術、海洋探査技術の開発、そして人材育成を通じて、持続可能な海洋経済の拠点を目指す。旧飛行場は、将来の技術開発の場として利用計画を策定。これらの取り組みで、海洋研究の強化を図る。
(注5)ブルートランスフォーメーション:海洋産業分野での技術変革。

13 持続可能な観光地域づくりの取組は?

【答弁】市長
本市の観光における課題(滞在時間の延伸、宿泊者数の増加、観光消費単価の向上)に対応するため、観光コンテンツの充実や中長期的な視点からの観光基本計画を令和6年度に策定した。また、官民が一体となって、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを推進していく。



美食・絶景・歴史による感動体験

15 有機農業の今後の取組は?

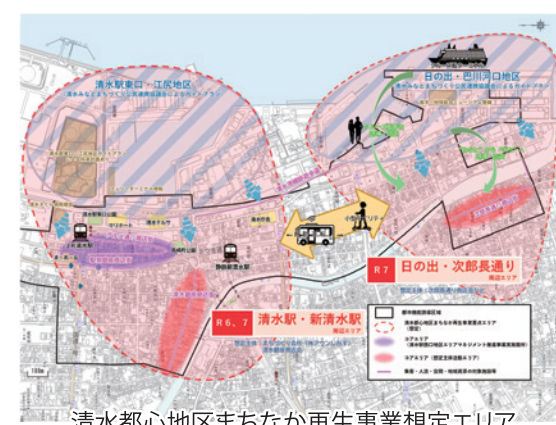
【答弁】農林水産統括監
有機農業の拡大を目指し、「静岡市グリーン農業フォーラム」を設立した。令和4年の有機農業面積は0.7%に過ぎませんが、2050年までに25%まで増やす計画。令和6年度には、お茶の有機栽培の技術実証、有機堆肥の製品化推進、農業削減のための実証、学校給食と小売事業者との販路確保を含む4つの取組を実施して、収益性の高い持続可能な農業を目指す。



5 暮らし豊かなまちづくり(公共施設・都市)

17 清水都心地区のまちづくりの方針と今後の取組は?

【答弁】都市局長
清水都心地区の活性化のために、みなと側とまち側の協力によるまちづくりを進める。令和6年度からは、公民協働で具体的な活性化策を検討するための「清水都心地区まちなか再生指針」の策定に着手する。



清水都心地区まちなか再生事業想定エリア

14 物流の2024年問題(注6)対策は?

【答弁】経済局長
本市の物流業はGDPの約8%を占め、2024年問題への十分な対応は8.6%に留まる。市は静岡県トラック協会と協力し、業界の現状や課題の理解を深め、適正運賃の確保や賃上げのための政策推進を国に要望。また、11月の補正予算で、物流事業の生産性向上を支援するための助成策を設けた。
(注6)4月に始まるトラック運転手の残業規制で輸送能力低下が懸念される問題。

16 プロ野球「くふうハヤテベンチャーズ静岡」への支援策は?

【答弁】観光交流文化局長
くふうハヤテの地域価値創出に向け、市民と球団を結びイベントや学校訪問、広報活動を実施し応援機運を高める。下支えとして、球団創設支援にネーミングライツ料の大半を配分し、「地域おこし協力隊」を用いて球団の地域根付きを促進する。

18 海洋・地球総合ミュージアムをより良い施設とするための取組は?

【答弁】海洋文化都市統括監
新しい展示では、駿河湾の環境をプロジェクションシアターで直感的に体感できるよう計画している。2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ目標に向けて、断熱性能向上や高効率機器の採用、地域マイクログリッドへの参加でエネルギー消費を抑える取り組みを進めている。また、バリアフリー化にも努め、多言語対応や音声案内を含む利便性の向上を図っていく。



清水マリンターミナル(客船発着場) ※イメージであり実際の形状と異なる可能性があります。